整理番号:zennoh-2
作成日 2022年4月19日

安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学物質等の名称	硝酸アンモニウム、(Ammonium nitrate)
会社名	全国農業協同組合連合会
担当部署	耕種資材部
住所	〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1　JAビル33F
電話番号	03-6271-8285
FAX番号	03-5218-2536
メールアドレス	zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急時の電話番号	03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限　　**肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないで下さい。**

---

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

爆発物	:	分類できない
可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む)	:	分類対象外
エアゾール	:	分類対象外
支燃性又は酸化性ガス	:	分類対象外
高圧ガス	:	分類対象外
引火性液体	:	分類対象外
可燃性固体	:	分類できない
自己反応性物質および混合物	:	分類対象外
自然発火性液体	:	分類対象外
自然発火性固体	:	区分外
自己発熱性物質及び混合物	:	分類できない
水反応可燃性化学品	:	区分外
酸化性液体	:	分類対象外
酸化性固体	:	区分 3

有機過酸化物	：	区分外
金属腐食性物質	：	分類できない
急性毒性（経口）	：	区分外
急性毒性（経皮）	：	区分外
急性毒性（吸入－ガス）	：	分類対象外
急性毒性（吸入－蒸気）	：	分類できない
急性毒性（吸入－粉じん及びミスト）	：	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	：	区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	：	区分２
呼吸器感作性	：	分類できない
皮膚感作性	：	分類できない
生殖細胞変異原性	：	分類できない
発がん性	：	分類できない
生殖毒性	：	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：	区分１（血液）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：	区分１（血液）
吸引性呼吸器有害性	：	分類できない
水生環境有害性　短期（急性）	：	区分外
水生環境有害性　長期（慢性）	：	区分外
オゾン層への有害性	：	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル　：

注意喚起語　：　危険

危険有害性情報　：　H272 火災助長のおそれ：酸化性物質。
H319 強い眼刺激。
H370 血液の障害
H372 長期にわたる，又は反復ばく露による血液の障害。

注意書き　：

安全対策:

P220 衣類/食品/飼料/可燃物から遠ざけること。
P210 熱/高温表面から遠ざけること。
P221 可燃物/混触危険物質との混合を回避するために予防策をとること。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P270 この製品を使用するときに，飲食又は喫煙をしないこと。
P264 取扱後は顔と手をよく洗うこと。
P280 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置:

P370 + P378 火災の場合：消火には、適切な消火剤を使用すること。
P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P314 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

保管:

P405 施錠して保管すること。

廃棄:

P501 国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

重要な徴候及び想定される非常事態の概要　：　粉じん爆発を起こすおそれがある。
この製品は、水生環境の富栄養化の原因となることがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：　混合物

成分名称	CAS 番号	濃度(%)	化審法番号	安衛法番号
硝酸アンモニウム	6484-52-2	99.5 以上	(1)-395	(1)-395
固結防止剤	非開示	0.2 未満	非開示	非開示

危険有害成分

化学名	CAS 番号	含有量 (% w/w)
硝酸アンモニウム	6484-52-2	99.5 以上

4. 応急措置

吸入した場合　：　空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が困難な場合あるいはチアノーゼが認められた場合には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
鼻、口、喉を水でゆすぐ。
体を毛布などで覆い、保温する。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。
直ちに医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合　：　多量の水と石けん（鹸）で優しく洗うこと。
直ちに汚染された服と靴を取り除く/脱ぐ。
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
チアノーゼが認められた場合には、酸素吸入を行う。

眼に入った場合　：　眼を擦ってはならない。
まぶたを開いた状態に保つ。
できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合　：　口を水で十分にゆすぎ、意識を失っていない場合は多量の牛乳または水を飲ませる。
意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
直ちに医師の診断/手当てを受けること。
空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。
体を毛布などで覆い、保温する。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう

頭部を下げる。
呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。
呼吸が困難な場合あるいはチアノーゼが認められた場合には、酸素吸入を行う。

応急措置をする者の保護 ： 救助の際は保護具を着用する（「８．ばく露防止及び保護措置」を参照）。

5. 火災時の措置

消火剤 ： 水

使ってはならない消火剤 ： 粉末消火剤、泡消火剤、棒状水

特有の危険有害性 ： 外部火災の熱によって、容器内で急激に分解して、容器の破裂に至るおそれがある。
爆発または延焼中に本製品の未燃焼の粉体が舞い上げられると二次爆発のおそれがある。
混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）に留意して、適切な冷却手段にて容器を冷却する。
間違って消火に水を用いたり、周辺火災で水を用いたりすると、以下の反応を生じる事がある：
激しい反応
燃焼ガスおよび/または分解ガスには、刺激性、腐食性および/または毒性のガスが含まれるおそれがある。
火災の際は有害なガス（「10. 安定性及び反応性」参照）が発生し、めまいや窒息や健康被害を引き起こすおそれがある。
可燃物を発火させるおそれがある。
漏出すると火災・爆発の危険性がある。
混触危険物質と接触すると火災や爆発の危険性がある。

特有の消火方法 ： 風上から作業する。
安全な場所から消火する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
大規模火災で大量にある場合：区域より退避させ、十分に離れた距離から消火すること。
周辺の他の未燃可燃物の防護：可能かつ安全ならば、容器を移動させるか、散水などで冷却する。
外部火災からの製品防護：可能かつ必要がある場合は、製品の入った容器を安全な場所に移動させ、容器または周辺設備を水等で冷却する。
容器の移動の際は、衝撃や摩擦を与えないこと。
消火に用いた水は堰を作って囲い、後で廃棄する。物質がちらばらないようにする。

消火を行う者の保護	:	各国、地域で規定された標準の全身保護衣および空気式呼吸器(SCBA)を着用する。 防護面、ヘルメット、手袋を含む耐炎性防火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	人体に対する注意事項 火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護具を着用する。 適切な保護具（「８．ばく露防止及び保護措置」参照）を着用して、眼や皮膚への粉じんの付着または粉じんを吸入しないようにする。 緊急処置 適切ならば、散水して飛散を防止する。 風下の人を退避させ、風上から作業する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 周辺環境に、影響（健康被害を含む）を及ぼすおそれがある場合は、周辺の居住者に警告する。 付近の着火源となるものを、直ちに取り除く。 大きな安全地帯を設定する。 二次災害の防止策 全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。 粉じん雲の発生や粉じんの堆積を防ぐ。 適切な消火剤を準備する（「5. 火災時の措置」を参照）。 排水溝、下水溝、地下室、くぼ地あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 風により飛散が拡大する場合は防水シートで覆う。
環境に対する注意事項	:	環境中に放出しないこと。 漏出物が水系（河川や下水など）に流入して環境への影響を起こさないように、堤を作って堰止める。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	:	粉じんの飛散を防ぐため、水にて湿らせておくこと。 速やかに回収する。 適切ならば飛散防止のためにまず湿らせる。 水系（河川や下水など）へ拡散しないように、速やかに堤を作って堰止め、水で湿らせて回収し廃棄する。 漏出物を掃き集めて密閉式の容器に回収し、安全な場所に移す。 全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。 可燃物を漏出物から隔離する。 漏洩または漏出物を回収する場合は、専門家のアドバイスを求める。 回収時には粉じん防爆型の電気設備および照明設備を使用し容器は接地する。 飛散防止のため微粉の捕集には粉じん防爆タイプの集じん機を使用する。

残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。
回収作業は、安全取扱い（「7.　取扱い及び保管上の注意」参照）措置をしたうえで実施すること。
廃棄方法は「13. 廃棄上の注意」を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：　全ての着火源を取り除く。
粉じん雲の発生や粉じんの堆積を防ぐ。
アースを確実に講じること。
粉じん防爆型の電気機器/換気装置/照明設備/装置を使用すること。
開放系で取り扱わざるを得ない場合、不活性化できない配管、ダクト、ホッパー等の設備は絶縁ライニングまたは絶縁コーティングを使用せず、アース等の静電気対策を確実に行うこと。
熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電から遠ざけること。－禁煙。
容器に機械的衝撃を与えないこと。
粉じんが発生する場所では、ばく露を防ぐため、密閉系で取り扱うか集じん装置を使用する。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
設備対策を行い、保護具を着用する（「８．ばく露防止及び保護措置」参照）。
粉じんを吸入しないこと。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
眼、皮膚、衣服への接触を避ける。
休憩場所には、汚染された保護具を持ち込まないこと。
皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に適切な保護具を着用する。
可能な限り、使い捨ての保護衣を着用する。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護衣は安全な方法で廃棄すること。

局所排気，全体換気　：　局所排気および/または全体換気を行う。

安全取扱注意事項　：　混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）から離しておく。

衛生対策　：　使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じんを発生させないこと！
本製品を吸入してはならない。
ヒトへのあらゆるばく露を避けること。
皮膚および眼との接触を避けること。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護具、作業衣等を処分する際は、周辺環境を汚染することがないように適切な方法を用いること。
取扱後は顔と手をよく洗うこと。

保管

安全な保管条件 : 保管場所には、必要な採光または照明および換気の設備を設ける。
施錠して保管すること。
食品、飲料水、動物の餌から離しておく。
直射日光を避ける。
冷所に保管。
換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
「10. 安定性及び反応性」を参照。

安全な容器包装材料 : 情報無し

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別ばく露限界/許容濃度

製品	基準	規制濃度	規制法規等
第３種粉じん － 総粉じん	許容濃度	8 mg/m^3	日本産業衛生学会
第３種粉じん － 吸入性粉じん	許容濃度	2 mg/m^3	日本産業衛生学会

設備対策 : 密閉された装置、機器または捕集装置を備えた局所排気装置および/または全体換気装置を使用する。
取扱場所に、手洗い設備、洗身洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具 : 呼吸用保護具は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。
緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具 : 手の保護具は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。
不浸透性保護手袋

眼の保護具	:	眼の保護具は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。 安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	:	個人用保護具(PPE)は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。 保護衣(長袖作業衣)

9. 物理的及び化学的性質

外観	:	結晶性粒子
色	:	白色
臭い	:	無臭
pH	:	データなし
融点・凝固点	:	169.6 ℃
沸点	:	> 210 ℃ （分解）
引火点	:	データなし
蒸発速度	:	データなし
爆発範囲の上限 / 可燃上限値	:	データなし
爆発範囲の下限 / 可燃下限値	:	> 2,000 g/m^3 粉じん爆発試験で、上記濃度以下で不爆。
蒸気圧	:	データなし
相対蒸気密度	:	データなし
比重	:	1.725 (25 ℃)
密度	:	データなし
溶解度（水）	:	2 g/mL
溶媒に対する溶解性	:	データなし
n-オクタノール／水分配係数	:	データなし

自然発火温度	:	データなし
分解温度	:	> 210 ℃

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	:	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	:	この製品の粉体は爆発性の粉じん雲を形成するおそれがある。 還元剤 可燃性物質 ：激しく反応するおそれ 強酸化剤 裸火 機械火花 電気火花 溶接火花 高温表面 加熱 摩擦熱 静電気放電 強酸 強塩基 可燃性物質 ：火災や爆発のおそれ 次亜塩素酸塩類 過塩素酸塩類 ：熱的衝撃および/または機械的衝撃などで容易に分解する不安定物質を生成するおそれ
避けるべき条件	:	裸火 機械火花 電気火花 溶接火花 加熱 高温表面 摩擦熱 静電気放電 など
混触危険物質	:	可燃性物質 強酸化剤 強酸 強塩基 次亜塩素酸塩類 過塩素酸塩類 還元剤

危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物
アンモニア

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報 : 経口
吸入
経皮
眼

急性毒性

製品:

急性毒性（経口） : ATEmix: 2,465 mg/kg
方法: 計算値

急性毒性（吸入） : 備考:データなし

急性毒性（経皮） : ATEmix: > 5,000 mg/kg
方法: 計算値

成分:

硝酸アンモニウム:

急性毒性（経口） : （ヒト）: 方法: 事故情報
標的臓器: 血液

LD50（ラット）: 2,462 - 2,950 mg/kg
標的臓器: 利用可能な情報に基づく限り分類できない。

急性毒性（経皮） : LD50（ラット）: > 5,000 mg/kg
標的臓器: 特定標的臓器は認められない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

製品:

備考 : データなし

成分:

硝酸アンモニウム:

種 : ウサギ
結果 : 刺激性なし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

製品:

備考 : データなし

成分:

硝酸アンモニウム:

種	:	ウサギ
結果	:	中等度の刺激性あり

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

試験タイプ	:	皮膚感作性
備考	:	データなし

生殖細胞変異原性

製品:

in vitro での遺伝毒性	:	備考: データなし
in vivo での遺伝毒性	:	備考: データなし

成分:

硝酸アンモニウム:

in vitro での遺伝毒性	:	試験タイプ: Ames 試験 テストシステム: ネズミチフス菌 結果: 陰性
in vivo での遺伝毒性	:	備考: データなし

発がん性

製品:

備考	:	データなし

生殖毒性

製品:

妊娠に対する影響	:	備考: データなし
胎児の発育への影響	:	備考: データなし

特定標的臓器毒性, 単回ばく露

急性毒性 (「11. 有害性情報」) を参照

特定標的臓器毒性，反復ばく露

製品：

備考	：	データなし

成分：

硝酸アンモニウム：

種	：	ヒト
投与経路	：	経口
方法	：	臨床報告
標的臓器	：	血液

吸引性呼吸器有害性

製品：

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

製品：

魚毒性	：	備考: データなし
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	：	備考: データなし
藻類／水生生物に対する毒性	：	備考: データなし
魚毒性（慢性毒性）	：	備考: データなし
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性（慢性毒性）	：	備考: データなし

成分：

硝酸アンモニウム：

魚毒性	：	LC50（魚類）: 542 - 1,756 mg/l ばく露時間: 96 hrs
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性		EC50（ミジンコ）: 555 mg/l ばく露時間: 7 Days
藻類／水生生物に対する毒性	：	NOEC（緑藻）: 83 mg/l ばく露時間: 7 Days

残留性・分解性

生分解性 : 備考: データなし

生体蓄積性

生体蓄積性 : 備考: データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

オゾン層破壊係数 : 国際規制: UNEP - オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書のためのハンドブック
備考: リストに掲載なし

他の有害影響

データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号 (UN number)	:	UN 1942
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	硝酸アンモニウム
国連分類 (Class)	:	5.1
容器等級 (Packing group)	:	III
ラベル (Labels)	:	5.1

航空輸送(IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number)	:	UN 1942
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	硝酸アンモニウム
国連分類 (Class)	:	5.1
容器等級 (Packing group)	:	III
ラベル (Labels)	:	Oxidizing Substances
梱包指示（貨物機）(Packing instruction (cargo aircraft))	:	563

梱包指示（旅客機） (Packing instruction (passenger aircraft))	:	559

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号 (UN number)	:	UN 1942
国連輸送名 (Proper shipping name)	:	硝酸アンモニウム
国連分類 (Class)	:	5.1
容器等級 (Packing group)	:	III
ラベル (Labels)	:	5.1
EmS コード (EmS Code)	:	F-H, S-Q
海洋汚染物質(該当・非該当) (Marine pollutant)	:	非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

供給された状態の製品には非該当。

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

緊急時応急措置指針番号

140

特別の安全対策

備考	:	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 車輌、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

15. 適用法令

関連法規

消防法

第１類 第三種酸化性固体

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2（施行令別表第 9）

化学名
硝酸アンモニウム

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条（施行令第 18 条）

化学名
硝酸アンモニウム

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 － 別表第一（危険物）

酸化性の物

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 酸化性物質類

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: 酸化性物質類

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

個品輸送　　: 海洋汚染物質には該当しない

水質汚濁防止法

有害物質（法第２条、施行令第２条、排出基準を定める省令第１条）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

肥料取締法

肥料

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のﾃﾞｰﾀはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。

本SDSは、住友化学株式会社の情報を元に作成しました。
該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名 ：住友化学株式会社
住所：〒104-8260
東京都中央区新川2丁目27番1号
電話：0570-058-669